

科目名	岐阜学入門 Gifu Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>【授業目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜をフィールドにした学びを通して岐阜の歴史・文化・現状を知る。 ・岐阜地域の抱える様々な課題に関連する情報をリサーチし、考える。 ・リサーチと並行して課題を解決する能力を高め、仮説を提案する。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜地域の歴史・文化・現状を理解し、自分の言葉で簡潔に説明することができる。 ・岐阜地域の課題を見つけ、課題解決に向けて情報収集することができる。 ・情報を整理し、問題と解決策の構造を把握し説明することができる。 ・岐阜市および岐阜地域の課題解決に向けた取り組み（仮説）を提言することができる。 		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：授業計画の①、④、⑦、⑧、⑩、⑫、⑬、⑭の各テーマについて現役または勤務経験のある学外講師が担当】</p> <p>毎回異なる学内外の専門家が担当するオムニバス形式の講義を受講し、岐阜の「歴史・文化」と「現状」について学ぶ。実務経験者が担当する回は、最新の現状や現場の実体験をもとに授業を行う（開講順は変更する場合がある）。最終回には、受講した講義内容から各自が取り組みたいトピック（テーマ）を設定し、よりよい岐阜市および岐阜地域になるための提案書「岐阜市の未来社会を創造する」に取り組む。</p> <p>【SDGs：3, 4, 11】</p> <p>【岐阜学関連の授業回：全授業回】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス及びデザイン思考 【担当：副学長・岐阜大学 教員】</p> <p>② 岐阜と食文化① 【担当：健康栄養学科 教員】</p> <p>③ 岐阜と食文化② 【担当：健康栄養学科 教員】</p> <p>④ 岐阜の農作物・畜産物 【岐阜県 農政部 農産物流通課】</p> <p>⑤ 岐阜の観光①（地域文化の活性化） 【担当：国際コミュニケーション学科 教員】</p> <p>⑥ 岐阜ゆかりの日本文学作品 【担当：国際コミュニケーション学科 教員】</p> <p>⑦ 岐阜市における国際化の現状 【岐阜市 魅力づくり推進部 国際課】</p> <p>⑧ 岐阜の観光②（岐阜のもてなし） 【岐阜市 魅力づくり推進部 観光コンベンション課】</p> <p>⑨ 岐阜の地域の産業と暮らし①（ファッション産業） 【担当：デザイン環境学科 教員】</p> <p>⑩ 岐阜の地域の産業と暮らし②（土育・木育） 【担当：デザイン環境学科 教員】</p> <p>⑪ 岐阜の地域の産業と暮らし③（アントレプレナーシップ） 【武蔵野大学 アントレプレナーシップ 研究所】</p> <p>⑫ 岐阜市の公共交通について 【岐阜市 都市建設部 交通政策課】</p> <p>⑬ 岐阜とジェンダー 【岐阜県 健康福祉部 子ども・女性局 子ども家庭課】</p> <p>⑭ 岐阜の産業構造・事業承継の現状 【十六銀行 グループ内行員及び職員】</p> <p>⑮ サステイナブルな組織とプラスチックの話 【担当：学長】</p> <p>（講義テーマの詳細は、ガイダンスまたは各講義で伝える）</p>		
予復習等	<p>【予習】各回のテーマについての概要や現状を調査しておくこと。</p> <p>【復習】配布資料を読み、疑問点は調べて理解を深めること。期限内に課題を提出すること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度、各講義の課題提出、提案書等を総合評価する（詳細はガイダンスで伝える）。		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	参考資料は適宜配布する。		

科目名	地域公共 Local Public Affairs	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	課題創造演習 Problem Finding and Program Creating	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	演習
担当者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本演習では、これまでの正しさの論理をめぐい去り、分野の垣根を超えながら知識を共有し、それを発展的に展開していく能力を養う。具体的には、以下の3つを身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変化する社会に潜む課題の発見 2. 分野を横断した議論の方法 3. 正解の無い問いに対処する方法 		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 これまでは、与えられた課題を解決する力を備えた人材が重宝されてきた。そのため、解決策を学ぶことや、そのためのスキルを覚えることが、大切だと思われてきた。しかし、近年、社会情勢はこれまで以上の加速度的に変化し、さらに多様化している。そのため、これまでで正しいと思われてきた論理にて意思決定をしては、人々の幸福につながらないケースが発生すると考えられる。本演習では、前半で議論・促進・抽出の方法を学んだのち、受講者によるグループワークやディスカッションを行い、正解の無い問いに対する対処方法および表現方法を学ぶ。 【SDGs：11】 【岐阜学関連の授業回：全授業】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 多様な社会課題 ③ 議論・促進・抽出の方法 ④ ディスカッション（課題抽出） ⑤ 文献調査 ⑥ ディスカッション（課題抽出） ⑦ ディスカッション（調査計画） ⑧ 現地調査 ⑨ 現地調査 ⑩ 調査結果発表 ⑪ ディスカッション（表現方法） ⑫ 制作（Adobe、パワーポイント） ⑬ 制作（作業） ⑭ 制作（作業） ⑮ 成果発表 		
予復習等	<p>【予習】本演習の第一回目までに、参考書を一読しておくこと。 参考書にはマンガ版を示したが、同様のタイトルの新書版でも良い。 【復習】授業の内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度50%、課題50%		
履修条件	集中講義であるため、開講時期に注意すること。現地調査など、学外へ移動することがある。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	『マンガと図解でわかる 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』 /山口周 / 出版：光文社		

科目名	生活と経済 Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>基礎的な経済学を学ぶことにより、生活に関わる様々な経済の仕組みを理解できるようになること、また身近な経済問題について考察し、日常の選択について自ら考えることができるようになることを目指します。学生が自身が社会に貢献することの意義を知り、自らのライフイベントにおけるお金の問題を理解し、その対処を考えより良い選択が行えるようになることを目的とします。「生活と経済」を学ぶことにより、社会に貢献する意義について理解し、また自らの選択を見直しつつ将来にわたる経済的な設計を考え、説明できるようになることを到達目標とします。</p>		
授業概要	<p>経済の問題と聞くと難しいと身構えてしまう方も多いいのではないのでしょうか。しかし、日々の生活において金銭を支払うことける支出を出費を行うこと、例えば「おやつ」を食べるかどうか、そしてどんな「おやつ」を食べるのかという問題も経済問題の一種です。また、収入を得る様々な手段（働いて給与を得る、事業を営む、あるいは配当金や家賃収入を得るなど）や、クレジットカードの利用・住宅ローンの選択なども経済の問題なのです。社会における価値の創造から自分の財産形成など、収入と支出に関わる問題への対処を学び、身近な話題から「経済」について理解しましょう。 【SDGs：1, 4, 8, 9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに一オリエンテーション ② 経済の指標の取り方 ③ 価値と市場について—GDPの基礎概念 ④ 生産活動と所得 —「分け前」の獲得 ⑤ 誰がお金を使ったか?—消費と企業活動 ⑥ 市場の動きと所得の大きさ ⑦ 資産とは何か—ポートフォリオ選択 ⑧ お金の「価格」とは何か ⑨ 消費者の満足とは—効用水準 ⑩ 自分にとっての価値（主観的価値と客観的価値） ⑪ 何を買うことが良いのか?—消費の選択 ⑫ 多数決より満場一致が望ましい—パレートの意味での効率性 ⑬ 企業活動の利潤と費用 ⑭ クレジットカードの意味—支出と所得と時間の関係 ⑮ 異時点間の消費選択—住宅ローンに代表される借入れの問題 ⑯ 定期試験—記述式 		
予復習等	<p>【予習】直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】講義資料における疑問点について調べ、内容理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する（プリント、簡略化したスライド資料）。		
参考書	講義中に適宜参考資料を紹介するが、購入を推奨するものではない。		

科目名	生活と福祉 Social Welfare	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	天池 洋介	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>・北欧デザインなど日本にある身近なものに興味・関心を持ち、主体性を持って北欧の文化とその背後にある福祉の考え方を幅広く学び、理解することができる。</p> <p>・福祉の現場における具体的なサービスと、それを支える社会政策を学び、福祉国家とはどういうものかを、自分なりにイメージすることができる。</p> <p>・最終的に北欧の事例を理解することで、日本の現状を検討し、日本における問題の解決方法を、自分なりに考えることができる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関の生活・福祉電話相談員の経験あり】</p> <p>近年、スウェーデンのIKEA、フィンランドのMarimekko、デンマークのFlying Tiger Copenhagenなどの北欧デザインやその製品が注目されています。本講義はこのような北欧デザインや北欧の文化を通じて、北欧の豊かな生活と高い水準の福祉について学びます。</p> <p>また、世界の最先端と言われる福祉のシステムや経済、政治のあり方から、人々の生活と幸せを支援する国の姿＝福祉国家について実践的に学びます。最終的に北欧の姿を鏡にして、日本の現状と課題を考えます。</p> <p>本講義は実物や映像を見ながら、調べ学習や体験も交えて学ぶアクティブ・ラーニング型の講義です。自ら考え、学ぶことを楽しみ、積極的に参加することを期待しています。</p> <p>【SDGs：1, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 日本の中の北欧を探す ② 北欧デザインから幸せの支援を考える ③ 映像で見る福祉国家の生活 ④ 誰もが安心して暮らせる普遍主義 ⑤ 福祉の先進地域・北欧5カ国を知る ⑥ 英語と似ている北欧の言葉 ⑦ 本当の教育を考える ⑧ 現場重視の福祉制度 ⑨ 家事や育児を分担する家庭と社会 ⑩ 話し合いで社会環境を変える精神科医療 ⑪ 世界でもっとも人道的な刑務制度 ⑫ 北欧を揺るがす移民問題 ⑬ 人を助ける経済のしくみ ⑭ 社会をコントロールする政治の力 ⑮ 日本で幸せを支えるために ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】授業終了時に、次回の予習となるような宿題を出します。</p> <p>【復習】授業の振り返りをするために、ノートを読み返してもらいます。</p>		
評価方法	宿題・授業課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	その都度指示する		

科目名	心理学 Psychology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）	科目区分	講義
担当者	講師未定	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	生活と化学 Chemistry	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年後期）	科目区分	講義
担当者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	化学の基礎的な考え方や概念を理解する。具体的には、有効数字やSI単位について理解し、簡単な四則計算の問題が解けるようになる。また、紫外線や食品の話題からエネルギーの意味について考えたり、食品に含まれる代表的な有機化合物や無機化合物の構造や性質についても理解する。		
授業概要	日常生活の中で、私たちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかかわりがある。たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解できるように配慮し、なるべく身近な事例、例えば、食品やからだに含まれる成分などをテーマに取り上げ、化学と生活とのかかわりについて、分かり易く解説する。 【SDGs : 3, 4】		
授業計画	① オリエンテーション ② 元素と元素記号（カラダは何からできていますか？） ③ 物質の測定（SI単位） ④ 紫外線①（種類と影響） ⑤ 紫外線②（対策） ⑥ カロリー（エネルギー） ⑦ ダイエット①（BMI） ⑧ ダイエット②（肥満） ⑨ ダイエット③（血糖値） ⑩ 身のまわりの酸と塩基（中和反応） ⑪ アルコール①（種類と構造） ⑫ アルコール②（お酒） ⑬ 運動と栄養①（食品中の有機化合物と無機化合物） ⑭ 運動と栄養②（食品中の有機化合物と無機化合物） ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】事前にテキストの該当する章をしっかりと読んでくる。 【復習】ノートに整理し、理解する。		
評価方法	定期試験100%		
履修条件	なし		
教科書	『わかる化学』／著：松井徳光ほか／出版：化学同人		
参考書	なし		

科目名	ジェンダー論 Gender Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中島 美幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が「ジェンダー」について学び、以下の4点を獲得することを目標とする。 ①無意識の偏見に気付き、ジェンダーセンシティブな視点を持つことができる。 ②多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。 ③将来のライフデザインを、より明確に描くことができる。 ④生きる力を高め、社会に対し主体的に働きかけることができる。		
授業概要	多様な選択が可能になったといわれる現代であるが、「男は仕事/女は家事」「男は強く/女は優しく」など、社会は男女で異なる役割を期待し、また多くの人も、それを当たり前と思いつけている。このように、社会や文化が作り出した性差をジェンダーと言う。この授業では、ジェンダーを作り出し、再生産している社会や文化の構造を明らかにするとともに、どのようにしたらジェンダーの縛りから自由になれるかを考える。そのために、過去の女性の生活や活動を知るとともに、現代の女性をとりまく様々な問題を考察する。そして、差別が解消された社会を展望する。 【SDGs : 1, 2, 3, 4, 5, 8, 10, 16, 17】		
授業計画	① 多様性とエンパワメント ② 50年後の日本を見据えて ③ 男女をめぐる国際比較 ④ 男女ともに働きやすい社会に ⑤ 恋愛・結婚・家族とジェンダー ⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ⑦ 母になる、父になる、ということ ⑧ 性別分業の起源と歴史①世界 ⑨ 性別分業の起源と歴史②日本 ⑩ 女性解放運動の歴史～フェミニズム ⑪ 作られる「女らしさ」「男らしさ」 ⑫ 「男らしさ」からの解放 ⑬ 暴力の根絶 ⑭ 日本の課題～法律・制度・慣習 ⑮ 平等な社会を求めて～世界と日本の今		
予復習等	【予習】新聞、雑誌、インターネットなどで、男女に関するテーマに関心を向けること。 【復習】授業後に、確認テストに答え、小レポートを作成すること。		
評価方法	毎回の、「確認テスト」(50%)と、「小レポート(授業の感想)」(50%)で評価する。		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし		

科目名	スポーツ&エクササイズ Sports and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際・デザイン（1年前期）／健康（1年後期）	科目区分	実技
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では、生涯にわたって運動に親しもうとする意識が養われることを目的とします。そのために重要なこととして、楽しむこと、どのような運動が自分に合うかを知ることが挙げられます。これらを達成するため、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみ方は多様であることを認識する ・楽しむためには参加者の様々な状況について相互理解と協力が重要であると認識する ・どのような運動が自分の好み、体力特性、得手不得手などに合っているかを認識する 		
授業概要	<p>授業では、楽しむことを最も重視して進めていきます。受講者は運動能力や体力の高い人からそれほど得意でない人まで様々ですので、そのことを考慮した難易度設定や雰囲気作りを行います。受講者には、自分自身はもちろん周囲の人達も楽しめるように意識することを求めます。</p> <p>スポーツや運動は、用いられる技術やゲームの特性、必要となる体力特性などによって、カテゴリ分けをすることができます。この授業では、それらの特性を偏らせることなく、様々な種目をカテゴリ毎に毎に実施します。特定の種目の技術や体力を高めるタイプの授業ではなく、体験型の授業とします。様々な種目を体験することにより、自分自身に合うスポーツや運動のタイプを認識できるようになることを目指します。具体的な実施種目は、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布してお知らせします。【SDGs：3】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験(1) ③ 学内スポーツ施設体験(2) ④ チームスポーツ（攻守分離型）(1) ⑤ チームスポーツ（攻守分離型）(2) ⑥ ニュースポーツ(1) ⑦ ニュースポーツ(2) ⑧ チームスポーツ（攻守混合型）(1) ⑨ チームスポーツ（攻守混合型）(2) ⑩ チームスポーツ（攻守混合型）(3) ⑪ 個人スポーツ（ネット対戦型）(1) ⑫ 個人スポーツ（ネット対戦型）(2) ⑬ レクリエーションスポーツ(1) ⑭ レクリエーションスポーツ(2) ⑮ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】実施種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】メディア等で実施種目を視聴・観戦し、特性等を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況60%、授業態度40%		
履修条件	運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	健康とスポーツ Health Science and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康（1年前期）／国際・デザイン（1年後期）	科目区分	演習・講義
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>運動、栄養、休養は「健康の三本柱」とは言われます。この授業では、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的とします。そのために、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が身体の健康状態に与える影響を理解する ・運動には多様な楽しみ方があることを認識する ・自分に合う運動のタイプを認識する。 		
授業概要	<p>この授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせ実施されます。スポーツの実践では、楽しむことを重視します。運動能力や体力レベルが様々な人達が集まって行われますので、受講者には、自分自身はもちろんのこと周囲の人達も楽しめるよう意識することを求めます。スポーツ実践においては更に、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行います。</p> <p>講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学びます。</p> <p>第2～6回はクラス単位で隔週実施、初回および第7～10回は学科単位で毎週実施します。実施順や具体的なスポーツ種目については、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布して説明します。【SDGs：3】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験 ③ チームスポーツ（攻守分離型） ④ ニュースポーツ ⑤ チームスポーツ（攻守混合型） ⑥ 個人スポーツ（ネット対戦型） ⑦ 講義「健康とは？運動しないとうなる？」 ⑧ 講義「肥満と痩せとダイエット」 ⑨ 講義「身体活動量の目安、『健康』に関わる体力要素」 ⑩ 体力づくり実践 		
予復習等	<p>【予習】実施するスポーツ種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況・態度60%、レポート40%		
履修条件	スポーツ実践の際には、運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報リテラシー（国際） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Word、Microsoft365 ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類、収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー（健康） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Word、Microsoft365 ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類、収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー (デザイン) Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル (スマートフォンやSNS (Social Networking Service) など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威) とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。 【SDGs : 4, 9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Word、Microsoft365 ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint (1) 基礎/演習 ④ PowerPoint (2) 発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel (1) データの種類、収集、前処理 ⑫ Excel (2) データの可視化 (1) ⑬ Excel (3) データの可視化 (2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響 (1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響 (2) 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。概ね1時間程度 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。概ね2時間程度</p>		
評価方法	平常点15%、授業内課題および最終課題85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	データサイエンス概論 Introduction to Data Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際・健康・デザイン (1年前期)	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>人工知能 (AI) やデジタルトランスフォーメーション (DX)、データサイエンスは、我々の生活の中に入りつつあり、今後、必要不可欠なツールになる。今後の社会を生きていくためには、AIやDX、データサイエンスを正しく理解し、使えるようにする必要がある。そこで、本講義では、AIやDX、データサイエンスの概略とデータを扱う上で必要な知識を学ぶ。 本講義の到達目標は、現代社会におけるデータサイエンスの役割が説明できること、データ分析に関する基礎的な分析方法を身に着けること、そして、AIがどのような技術であるかを説明できること、である。</p>		
授業概要	<p>最初に、AIやDX、データサイエンスの出現によって起きた社会の変化やその重要性・必然性、国内外の科学技術政策について学ぶ。その後、AIやデータサイエンスのシステム、データ活用事例について学習する。次に、データやAIを取り扱ううえでの留意事項 (データの収集方法やバイアスなど) ・セキュリティについて学ぶ。ここでは、今後起こり得る社会的な問題についても学習する。続いて、実際のデータを用いて、データの読み方や分析手法について学ぶ。実際にデータを分析することで、学んだ知識の定着を行う。これによって、データリテラシーを身に着ける。最後に、AIやDX、データサイエンスの発展に伴う私たちの社会の変化と自分自身の将来について考えていく。 【SDGs : 4, 9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、社会で起きている変化口 ② データサイエンスの重要性・必然性 ③ データが変える社会 ④ データ活用のプロセス ⑤ データ・AIが何に使えるか ⑥ データ活用事例に学ぶ (海外、国内、岐阜) ⑦ AIとは何か? ⑧ AIの技術 ⑨ データ・AIにおける留意事項とセキュリティ ⑩ データの読み方 ⑪ データの説明 ⑫ データを扱う (1) ⑬ データを扱う (2) ⑭ データサイエンスとこれからの働き方 ⑮ データサイエンスと私たちの未来 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。 【復習】 学んだ内容について再度資料をよく読む。</p>		
評価方法	授業内課題60%、定期試験40%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。必要に応じて資料をTeams上で配布する。		
参考書	なし。		

科目名	英語 I (国際Aクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に各自の英語運用能力の向上させることを目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。学生は①比較的平易な英語での解説を聞き取れるようになる、②正確な英文読解ができるようになる、③自分の意見を平易な英語で書いたり、発表できるようになる、④海外事情を学び、理解する。		
授業概要	世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。学生は指定された箇所のリスニング教材を使い英語で紹介される海外事情を聞き取り、内容を理解する。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み理解する。正確に内容把握するため授業中に与えられる課題に取り組み、文の構造、語彙・文法の確認を行う。定期試験の他、語彙、文法、リスニングを含む小テストを行う。リスニングとリーディングの内容理解にはテキストの問題の他、配布資料を使用する。 【SDGs : 4, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定された箇所の英文を読み、語彙や文法について調べておく。 また、附属の音声教材を使いリスニング問題を解く。(60分) 【復習】 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。(30分)		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	On Board for More World Adventures /著: Scott Berlin他 /出版: 金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語 I (国際Bクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に各自の英語運用能力の向上させることを目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。学生は①比較的平易な英語での解説を聞き取れるようになる、②正確な英文読解ができるようになる、③自分の意見を平易な英語で書いたり、発表できるようになる、④海外事情を学び、理解する。		
授業概要	世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。学生は指定された箇所のリスニング教材を使い英語で紹介される海外事情を聞き取り、内容を理解する。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み理解する。正確に内容把握するため授業中に与えられる課題に取り組み、文の構造、語彙・文法の確認を行う。定期試験の他、語彙、文法、リスニングを含む小テストを行う。リスニングとリーディングの内容理解にはテキストの問題の他、配布資料を使用する。 【SDGs : 4, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定された箇所の英文を読み、語彙や文法について調べておく。 また、附属の音声教材を使いリスニング問題を解く。(60分) 【復習】 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。(30分)		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	On Board for More World Adventures /著: Scott Berlin他 /出版: 金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語 I (健康Aクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に各自の英語運用能力の向上させることを目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。学生は①比較的平易な英語での解説を聞き取れるようになる、②正確な英文読解ができるようになる、③自分の意見を平易な英語で書いたり、発表できるようになる、④海外事情を学び、理解する。		
授業概要	世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。学生は指定された箇所のリスニング教材を使い英語で紹介される海外事情を聞き取り、内容を理解する。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み理解する。正確に内容把握するため授業中に与えられる課題に取り組み、文の構造、語彙・文法の確認を行う。定期試験の他、語彙、文法、リスニングを含む小テストを行う。リスニングとリーディングの内容理解にはテキストの問題の他、配布資料を使用する。 【SDGs : 4, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定された箇所の英文を読み、語彙や文法について調べておく。 また、附属の音声教材を使いリスニング問題を解く。(60分) 【復習】 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。(30分)		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	On Board for More World Adventures /著: Scott Berlin他 /出版: 金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語 I (健康Bクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の目的は、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることを目的とする。具体的には英会話で頻出する基本的な表現の読み、書き、話し、書くことができることである。		
授業概要	英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは大学生活において遭遇する友人との会話を取り上げた『Global Activator』を使用する。このテキストの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを目指す。 【SDGs:4, 16, 17】		
授業計画	① Introduction ② Unit 1 College Life ③ Unit 2 Mobile Phones ④ Unit 3 Movies ⑤ Unit 4 Dating ⑥ Unit 5 International Food ⑦ Unit 6 World Englishes ⑧ Unit 7 Weekdays/Vacations ⑨ Unit 8 Music/Songs ⑩ Unit 9 Sports ⑪ Unit 10 Shopping ⑫ Unit 11 Traveling/Studying Overseas ⑬ Unit 12 Festivals/Parties ⑭ Unit 13 Part-time/Future Jobs ⑮ Review ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。 【復習】 会話、聞き取り問題や読解問題の復習をすること。		
評価方法	授業参加度、貢献度、発表、小テスト、課題その他 50%。定期試験 50%。		
履修条件	なし		
教科書	『Global Activator』 /著: 塩沢正 /出版: 金星堂		
参考書	授業中に指示する。		

科目名	英語 I (テ`サ`インAクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	服部 肇	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>さまざまな言語活動を通して、英語の伝達能力を伸長し、また、異文化への理解を深めることを目的とする。そして、次の点を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で挨拶を交わすことができるだけでなく、日常的な場面で英語で会話ができる。 ・身近なことからについて、英語で説明することができる。 ・身近に起こる問題について、自分の意見を英語で述べるができる。 ・身近な題材を扱ったひとまとまりの英文を読み、内容を理解することができる。 		
授業概要	<p>授業は、英語の母語話者によって編纂された下記の教科書を用いて行われる。教科書の聞き取り、読解、文法・表現等についての練習問題に各個人で取り組むだけでなく、英語が実際に使われる場面で、いっそうすぐれた英語の使用者になるために、ペアで英語で話し合うこと、自分の意見をクラスに英語で発表すること、ペアの相手の意見をクラスに英語で説明すること等の言語活動が行われる。また、随時、プリントを用いて、教科書に現われる語句の整理も行なう。</p> <p>【SDGs : 10】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 入門指導、Unit 1 (1) My life up to now! ② Unit 1 (2) A blind date ③ Unit 2 (1) Being a twin ④ Unit 2 (2) The independence quiz ⑤ Unit 3 (1) A good news story ⑥ Unit 3 (2) A spy story ⑦ Unit 4 (1) She's a supertaster ⑧ Unit 4 (2) Recipes for success ⑨ Unit 4 (3) A piece of cake ⑩ Unit 5 (1) Hopes and plans ⑪ Unit 5 (2) He was only 16 ... ⑫ Unit 5 (3) Expressing doubt and certainty ⑬ Unit 6 (1) In famous footsteps ⑭ Unit 6 (2) The not so distant past ⑮ Unit 6 (3) Family history ⑯ 定期試験 		
予復習等	受講後、授業で行なった言語活動の復習を行ない、教科書を読み返すことが求められる。		
評価方法	定期試験 (60%)、授業への取り組み (40%)		
履修条件			
教科書	『Headway, Pre-Intermediate, Student's Book, 5th edition, Part A』/著:Liz and John Soars, and Paul Hancock/出版:Oxford University Press		
参考書			

科目名	英語 I (テ`サ`インBクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>この授業の目的は、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身につけることを目的とする。具体的には英会話で頻出する基本的な表現の読み、書き、話し、書くことができることである。</p>		
授業概要	<p>英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身につけることをねらいとする。テキストは大学生活において遭遇する友人との会話を取り上げた『Global Activator』を使用する。このテキストの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを目指す。</p> <p>【SDGs:4, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Introduction ② Unit 1 College Life ③ Unit 2 Mobile Phones ④ Unit 3 Movies ⑤ Unit 4 Dating ⑥ Unit 5 International Food ⑦ Unit 6 World Englishes ⑧ Unit 7 Weekdays/Vacations ⑨ Unit 8 Music/Songs ⑩ Unit 9 Sports ⑪ Unit 10 Shopping ⑫ Unit 11 Traveling/Studying Overseas ⑬ Unit 12 Festivals/Parties ⑭ Unit 13 Part-time/Future Jobs ⑮ Review ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。</p> <p>【復習】 会話、聞き取り問題や読解問題の復習をすること。</p>		
評価方法	授業参加度、貢献度、発表、小テスト、課題その他 50%。定期試験 50%。		
履修条件	なし		
教科書	『Global Activator』/著:塩沢正/出版:金星堂		
参考書	授業中に指示する。		

科目名	英語Ⅱ（国際 外国語領域） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	未定	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	英語Ⅱ（国際 外国語領域以外） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	大学生レベルの英語学習として、英語の基礎力強化とともに、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行い、世の中で起きていることについて英語で説明できるようになることを目指す。		
授業概要	<p>①英語基礎力強化のための演習を行う。文法、リーディング演習を授業の最初に実施し、英語力の土台強化を行い、自学自習の習慣をつける。</p> <p>②指定のテキスト使い、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行う。</p> <p>世の中で起きていることについて英語で理解し、さらに説明できるようしていく。</p> <p>【SDGs : 8, 9, 10】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② Lesson 1</p> <p>③ Lesson 2</p> <p>④ Lesson 3</p> <p>⑤ Lesson 4</p> <p>⑥ Lesson 5</p> <p>⑦ Lesson 6</p> <p>⑧ Lesson 7</p> <p>⑨ Lesson 8</p> <p>⑩ Lesson 9</p> <p>⑪ Lesson 10</p> <p>⑫ Lesson 11</p> <p>⑬ Lesson 12</p> <p>⑭ Lesson 13</p> <p>⑮ Lesson 14</p> <p>⑯ （試験またはレポート）</p>		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況（課題提出を含む場合がある）40%、試験またはレポート60%		
履修条件			
教科書	異文化理解と国際ビジネス Global Understanding Success in International Business (成美堂)		
参考書			

科目名	英語Ⅱ（健康Aクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、たくさん英語を見たり聞いたり読んだりすることで、リーディングやリスニング力を伸ばし、更に意見を発表する総合的な英語力をつけることである。映画という生きた英語の素材を使ってより高度な英文読解力および英文聴解力を養成する。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ポキャブラリーの拡充をもち、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	実際にアメリカで起きた事件をもとに製作された映画のDVD教材を使用し、アメリカ社会に対する理解を深めさらに自国についても再認識する。授業計画に示した各ユニットにおいて映画を視聴しながらリスニング力、リーディング力を伸ばすとともに、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。また音読やシャドーイングにも力を入れる。重要な箇所、難解な箇所を理解し、状況に合った正しい理解ができるような読解力を身につけるために内容把握に関する練習問題に取り組む。 【SDGs：3, 4, 6, 11, 12】		
授業計画	① Introduction：Unit 1 ② Unit 2：Job Hunting(Reading) ③ Unit 3：Jog Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4：Discovery (Reading) ⑤ Unit 5：Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6：Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7：Getting Read for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Review ⑨ Unit 8：Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑩ Unit 9：Four-Hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑪ Unit 10：Binding Arbitration (Reading) ⑫ Unit 11：Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑬ Unit 12：Settlement (Reading) ⑭ Unit 13：Settlement (Audio-Visual Learning) ⑮ Unit 14：The Real Erin(Extra reading) ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、Vocabularyの問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、教材の復習。音読とシャドーイング。		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、小テスト、その他）50%、定期試験 50%		
履修条件	なし。		
教科書	『English on Screen: Learning real English through Erin Brockovich』金星堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ（健康Bクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、たくさん英語を見たり聞いたり読んだりすることで、リーディングやリスニング力を伸ばし、更に意見を発表する総合的な英語力をつけることである。映画という生きた英語の素材を使ってより高度な英文読解力および英文聴解力を養成する。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ポキャブラリーの拡充をもち、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	実際にアメリカで起きた事件をもとに製作された映画のDVD教材を使用し、アメリカ社会に対する理解を深めさらに自国についても再認識する。授業計画に示した各ユニットにおいて映画を視聴しながらリスニング力、リーディング力を伸ばすとともに、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。また音読やシャドーイングにも力を入れる。重要な箇所、難解な箇所を理解し、状況に合った正しい理解ができるような読解力を身につけるために内容把握に関する練習問題に取り組む。 【SDGs：3, 4, 6, 11, 12】		
授業計画	① Introduction：Unit 1 ② Unit 2：Job Hunting(Reading) ③ Unit 3：Jog Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4：Discovery (Reading) ⑤ Unit 5：Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6：Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7：Getting Read for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Review ⑨ Unit 8：Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑩ Unit 9：Four-Hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑪ Unit 10：Binding Arbitration (Reading) ⑫ Unit 11：Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑬ Unit 12：Settlement (Reading) ⑭ Unit 13：Settlement (Audio-Visual Learning) ⑮ Unit 14：The Real Erin(Extra reading) ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、Vocabularyの問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、教材の復習。音読とシャドーイング。		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、小テスト、その他）50%、定期試験 50%		
履修条件	なし。		
教科書	『English on Screen: Learning real English through Erin Brockovich』金星堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ (デザインAクラス) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	未定	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	英語Ⅱ (デザインBクラス) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	大学生レベルの英語学習として、英語の基礎力強化とともに、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行い、世の中で起きていることについて英語で説明できるようになることを目指す。		
授業概要	<p>①英語基礎力強化のための演習を行う。文法、リーディング演習を授業の最初に実施し、英語力の土台強化を行い、自学自習の習慣をつける。</p> <p>②指定のテキスト使い、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行う。</p> <p>世の中で起きていることについて英語で理解し、さらに説明できるようしていく。</p> <p>【SDGs : 8, 9, 10】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② Lesson 1</p> <p>③ Lesson 2</p> <p>④ Lesson 3</p> <p>⑤ Lesson 4</p> <p>⑥ Lesson 5</p> <p>⑦ Lesson 6</p> <p>⑧ Lesson 7</p> <p>⑨ Lesson 8</p> <p>⑩ Lesson 9</p> <p>⑪ Lesson 10</p> <p>⑫ Lesson 11</p> <p>⑬ Lesson 12</p> <p>⑭ Lesson 13</p> <p>⑮ Lesson 14</p> <p>⑯ (試験またはレポート)</p>		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況 (課題提出を含む場合がある) 40%、試験またはレポート60%		
履修条件			
教科書	異文化理解と国際ビジネス Global Understanding Success in International Business (成美堂)		
参考書			

科目名	英語Ⅲ [国際] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Students will build on the basic conversation skills learned in the first year. The objective of this course is to further develop language skills and enable students to speak for longer periods in English. This will be achieved through adding to vocabulary learned, improving listening comprehension and giving students opportunities to express themselves in English.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 In this course students will have the opportunity to listen to longer recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre- taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work. 【SDGs：4】		
授業計画	① Orientation ② Unit 1: Memories ③ Unit 2: Life changes ④ Unit 3 Viewpoints ⑤ Unit 4: Problems ⑥ Unit 5: Thinking ahead ⑦ Unit 6: Imagine! ⑧ Speaking assessment 1. Review of Units 1-6. ⑨ Unit 7: My World ⑩ Unit 8: Past events ⑪ Unit 9: Feelings and opinions ⑫ Unit 10: What if...? ⑬ Unit 11: Work it out ⑭ Unit 12: Looking back ⑮ Speaking assessment 1. Review of Units 1-6. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. End of term speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Breakthrough Plus Book 3. Macmillan Education. Miles Craven.		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅲ [健康・デザイン] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康・デザイン（2年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションや外国に行く時における様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。以上のことを個人およびペアやグループディスカッション、さらにプレゼンテーションを通して行う。 【SDGs:10, 16, 17】		
授業計画	① イントロダクション ② Unit 1 Travel ③ Unit 2 Jobs and People ④ Unit 3 Getting on the plane ⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs ⑥ Unit 5 At the Airport ⑦ Unit 6 Hotel ⑧ Unit 7 Restaurant ⑨ Unit 8 Sightseeing ⑩ Unit 9 Shopping ⑪ Unit 10 Transportation ⑫ Unit 11 Problems and Compliments ⑬ Traveling in Japan (1) ⑭ Traveling in Japan (2) ⑮ Traveling in Japan (3) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。 【復習】 授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること。		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、発表、小テスト課題など） 50%、定期試験 50%。		
履修条件	学修規程による。（授業の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象とならない）		
教科書	『ENGLISH for Tourism <Basic>』／著：観光英検センター／出版：三修社		
参考書	適宜指示する。		

科目名	英語IV [国際] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (2年後期)	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Students will build on the basic conversation skills learned in the first year. The objective of this course is to further develop language skills and enable students to speak for longer periods in English. This will be achieved through adding to vocabulary learned, improving listening comprehension and giving students opportunities to express themselves in English.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 In this course students will have the opportunity to listen to longer recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre- taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work. 【SDGs : 4】		
授業計画	① Orientation ② Unit 1: Success ③ Unit 2: Difficult decisions ④ Unit 3: Keeping busy ⑤ Unit 4: He said what? ⑥ Unit 5: Changes ⑦ Unit 6: You can't do that! ⑧ Speaking Assessment 1. Review Units 1-6. ⑨ Unit 7: Influences ⑩ Unit 8: If I hadn't ⑪ Unit 9: Past regrets ⑫ Unit 10: Looking ahead ⑬ Unit 11: It's a hard life ⑭ Unit 12: Women and men ⑮ Speaking Assessment 2. Review all units. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. End of term speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Breakthrough Plus Book 4. Macmillan Education. Miles Craven.		
参考書	なし		

科目名	英語IV [健康・デザイン] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康・デザイン (2年後期)	科目区分	演習
担当者	未定	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			

科目名	教養演習 Academic Skills		単位数	1	
			必選区分	必修	
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）			科目区分	演習
担当者	各教員			教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、まず、大学生生活をスタートさせるにあたり、主体的な学修に必要な学びの技術と表現を身につける（①から⑥と⑩、⑪）。その後、国際コミュニケーション学科の各教員によるオムニバス形式で授業を実施する（⑦から⑨、⑫から⑮）。本講義の目標は、受講生が日本を含む世界のさまざまな地域、または学科教員のさまざまな研究分野に広く関心を持つこと、今後どのような学びを修めていきたいかを考える際のヒントを得て、領域選択やゼミ選択に活かすことにある。				
授業概要	本講義は、まず演習形式でアカデミックスキルを身につけ、学外研修として岐阜市内見学を行い、グループ発表を行う（①から⑥と⑩、⑪）。また、国際コミュニケーション学科所属の教員がそれぞれの専門に関する地域や研究分野に関する導入的な講義を行い、受講生が今後どのような学びを修めていきたいかについて、ヒントを提供するものである（⑦から⑨、⑫から⑮）。この講義を通じて、受講生には、大学生活に必要な学びの技術を獲得することに加え、異文化への理解力と共感力を身につけると同時に、日本や自分たちが住んでいる地域に対する関心を改めて深めるきっかけにしてほしい。 【SDGs：1, 4, 5, 10, 11, 16, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑩, ⑪】				
授業計画	① 授業ガイダンス、自己紹介、学外研修についての説明 ② 図書館ガイダンス ③ 大学生の調べ方、資料の読み方 ④ 大学でのノートの取り方、レポートの書き方 ⑤ 説明のコツ ⑥ 効果的なプレゼンテーション ⑦ 国際コミュニケーション学科への導入、日本のことばの創造性と魅力（村中菜摘） ⑧ 東アジアの婚姻制度と親族組織（川上新二） ⑨ 英語学習の方法について理解を深めること（佐竹直喜） ⑩ 学外研修（市内見学、鶴飼見学）の発表（1） ⑪ 学外研修（市内見学、鶴飼見学）の発表（2） ⑫ 外国語を学ぶことの楽しさについて（孫ミギヨ） ⑬ Cross-cultural Communication Breakdowns: Causes and Solutions (Cotton, Randanll) ⑭ Z世代における日中間の相異について（王張障） ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響（長谷川旭）				
予復習等	予習：関心のある国際ニュースに触れておくこと。 復習：各授業に関するメモを整理し、まとめておく。関心を持った用語や出来事、ニュースに関する調査を行う。				
評価方法	授業態度・出席状況（25%）：⑦から⑨、⑫から⑮の授業の各回に出される課題を提出する。課題に対して各回に採点（10点満点）し、その合計を25点に換算する。各回の採点基準は授業ごとに提示する。 学外研修の発表（25%）：採点基準は担当教員が提示する。 期末レポート（50%）：⑦から⑨、⑫から⑮のなかで、最も関心を持った授業・テーマに関するレポートを執筆する。レポートのテーマや分量については、各担当教員が指示する。				
履修条件	なし				
教科書	なし				
参考書	なし。適宜紹介する。				

科目名	教養演習 Academic Skills		単位数	1	
			必選区分	必修	
開講学科	健康栄養学科（1年前期）			科目区分	演習
担当者	小野 廣紀			教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	教養演習を通して、大学における学びの技法を修得する。また、少人数のグループ学習の中で、将来、栄養士を目指して、「大学で何を学ぶべきか?」「社会でどのように役に立ちたいか?」「そのための必要な学び・スキルとは何か?」について、自ら考え、目標が立てられるようになる。 すなわち、高校生までの受け身の学修姿勢から自発的な学修姿勢への変換を目指す。				
授業概要	大学生として身につけるべき基礎的技能を習得する。 具体的には、ノートの取り方、講義の受け方、情報収集（文献・資料の検索方法）、スライドを使ったプレゼンテーションの基礎、レポートの作成方法などをグループ学習の中で学ぶ。また、グループワークの中で、コミュニケーション能力や総合的な判断力の養成を行う。 健康栄養学科では、特に「食」を学ぶ意義や「食」に係わる者の倫理に重点を置いた取り上げ方をする。 【SDGs：3, 4】				
授業計画	① オリエンテーション ② 学生の学習技術：ノートの取り方、講義の受け方 ③ 学生の学習技術：予習・復習、図書館の使い方 ④ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(1) ⑤ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(2) ⑥ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(3) ⑦ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(4) ⑧ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(5) ⑨ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(6) ⑩ 演習Ⅰ：口頭発表 ⑪ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(1) ⑫ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(2) ⑬ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(3) ⑭ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(4) ⑮ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(5) ⑯ レポート・論文提出				
予復習等	【予習】テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】配布資料がある場合、再読し、理解する。				
評価方法	出席状況25%、授業態度25%、発表25%、レポート・論文など提出物25%				
履修条件	なし				
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』 著：西川真理子/出版：化学同人				
参考書	担当教員がテーマに応じて適宜紹介する。				

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得することを目的とする。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得することを目標とする。		
授業概要	テキストに添って、「講義ノートをとる力」、「テキストを読む力」、「文献を調べる力」、「レポートを書く力」、「レポートをまとめる力」の順に進めていく。大学の講義においては、レポート課題が多く出されることから、「レポートを書く力」を習得することが特に重要となる。また、その事前の準備として文献調査が必ず必要となり、図書館の利用方法も理解し十分に活用してもらいたい。なお、各講義においては、パワーポイントを用いて、簡潔に理解できるよう工夫している。 【SDGs：4】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 大学とは何か・本学の設立趣旨と本学科の教育目標 ② 講義ノートをとる力の習得 ③ テキストを読む力の習得 ④ 文献を調べる力の習得 ⑤ レポートを書く力の習得 ⑥ レポートをまとめる力の習得 ⑦ 成果を伝える力の習得 ⑧ 学外研修 ⑨ 学外研修 ⑩ 学外研修 ⑪ 学外研修 ⑫ 特別講義 ⑬ 卒業研究中間発表会 ⑭ 卒業研究中間発表会 ⑮ 卒業研究中間発表会 		
予復習等	【予習】教科書をあらかじめ見ておくこと。 【復習】学んだことを他の講義等で実行すること。		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	学外研修参加（レポート提出）、特別講義参加、卒業研究中間発表会参加		
教科書	くろしお出版 学習技術研究会編著 「知へのステップ 第5版」		
参考書	なし		

科目名	異文化理解と社会の変化 Intercultural Understanding and Social Shift	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化理解を感覚や印象に依存するのではなく、人口構造、経済、教育、健康、価値観などの統計データを用いて客観的に分析し、社会の変化を実証的に理解する力を養うことで相手をより深く理解することに繋がる技能獲得を目的とする。 本授業では、日本と諸外国の社会データを比較検討し、文化や社会の差異を「印象」ではなく「根拠」に基づいて説明できる力を育成する。あわせて、社会科学的視点に立った論理的思考力とデータリテラシーの修得を目指す。		
授業概要	本授業では、異文化理解を「文化論」にとどめず、「社会構造の比較研究」として、人口構造の変化と家族観の違い、経済発展と価値観の変容、教育水準と社会意識の関係、食文化と健康指標の国際比較、都市環境と生活様式の変化、デジタル化と世代間ギャップなどのテーマを中心に学ぶ。 各回では、国内外の公的統計や国際比較データを用いて分析を行い、データの読み取り方、可視化、解釈方法を学ぶ。また、過去数十年のデータ推移を追うことで、社会変化を歴史的な脈絡の中で理解する。これにより、異文化を「固定的な違い」としてではなく、「変化の過程」として捉える視点を養う。なお、本講義は集中講義（不定期開講）であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs：4, 9, 16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・異文化理解を実証的に捉えるとは何か ② 人口構造と社会の変化 ③ 経済発展と価値観の変容 ④ 教育・ジェンダー・社会意識 ⑤ 健康・食文化・生活環境 ⑥ デジタル化と世代間ギャップ ⑦ 比較研究の方法とレポート構成 ⑧ 最終発表と総括 		
予復習等	【予習】ニュースに関心を持ち、未知のキーワードや内容を調べる。 【復習】講義で取り扱った話題について自分で調べ、質疑応答や発表の準備をする。		
評価方法	授業態度30%、レポート40%、プレゼン30%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		

科目名	グローバル人材海外演習 Global Human Resource Overseas Training	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	演習
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>現代社会において、データは国境を越えて流通し、国際課題の理解や意思決定の基盤となっている。本演習では、各自が設定したテーマを主軸に、現地の風土・文化・社会状況に触れるとともに、データや事実を基に状況を捉え、比較・分析・考察するデータサイエンスの視点を取り入れた海外演習を行う。現地学生との協働的な活動を通じて、日本と世界を相互に捉える視野を養い、専門分野を問わず、グローバル社会に対応できる柔軟な思考力と課題発見力を身につけることを目的とする。</p> <p>1. 海外地域の社会・文化・経済に関する基礎データを収集・分析できる。 2. データ分析結果をもとに、自身の専門分野（国際コミュニケーション・健康栄養・デザイン環境）との関連を説明できる。 3. 異文化環境において、根拠に基づいた比較・考察を行うことができる。 4. 海外で得た体験的知見をデータと統合し、論理的に発表できる。 5. グローバル社会におけるデータリテラシーの重要性を理解し、自らの専門性と結びつけて説明できる。</p>		
授業概要	<p>春季休業中に、約1週間、アメリカにある岐阜市立女子短期大学の姉妹校Thomas More University (Crestview Hills, KY)において海外演習を行う。本演習では、データサイエンスを中心に、事前に設定した各自のテーマに基づいた研修を実施する。事前研修では、海外演習中に取り組むテーマの検討や事前調査を行い、演習内容の理解を深める。詳細については、オリエンテーションならびに授業進行の中で説明する。</p> <p>姉妹校は、岐阜市の姉妹都市であるアメリカ・シンシナティ近郊の“Greater Cincinnati”地域に立地している。現地の風土や文化を体感するとともに、岐阜市との姉妹都市交流の位置づけを理解し、参加を通じて各自が所属する学科の日常的な学びをさらに昇華させる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 事前：注意事項の説明や各自の海外演習中のテーマの検討などを行う。 ③ 事前：グレートシンシナティ地域の統計データ分析 岐阜市との比較 ④ 事前：各学科専門分野との関連性の検討 ⑤ 研修：Thomas More Universityでの交流、講義参加 ⑥ 研修：地域の施設、企業訪問 ⑦ 事後：各専門分野視点からの考察比較 ⑧ 事後：成果発表会の実施 		
予復習等	オリエンテーションで説明する内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。		
評価方法	研修での活動などへの参加態度 50%、発表 50%		
履修条件	履修条件はないが、1年後期に開講される「異文化理解と社会の変化」（データ駆動科学教育研究センター、全学科対象）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	オリエンテーションにて指示する。		

科目名	プログラミング入門 Introduction to Computer Programming	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>【目的】プログラミングについての知識は、社会を考察していくうえでも重要になっている。本授業では、Pythonを使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を修得する。</p> <p>【到達目標】これまでにプログラミングの経験がなくても、プログラミング言語の基本的な文法を理解し、簡単なプログラム作成ができるようになることを目標とする。 ※本授業によって得られるスキルは、連携開設科目「データ科学基礎演習B」の履修に役立つ（本授業を履修しなくとも「データ科学基礎演習B」を履修することは可能）</p>		
授業概要	<p>「プログラミング入門」では、Pythonというプログラミング言語を使って、コンピュータを使った問題解決の基礎を学びます。プログラミングを通じて、データの扱いや作業の自動化といった、社会で役立つスキルを身につけることができます。具体的には、データを整理する方法や、コンピュータを利用した問題を解決するための考え方を習得し、日常生活や仕事で役立つプログラムを作れるようになります。授業は、実際に手を動かしてコードを書きながら進めていき、最終的には、身の回りの課題をプログラミングを使って解決できるようになることを目指します。プログラミング初心者でも安心して学べる内容です。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション、環境構築 (Google Colab) ② プログラミングの基本構造、演算子 ③ 変数、制御構造 (順次) ④ 制御構造 (分岐) ⑤ 制御構造 (反復) ⑥ 関数とモジュール ⑦ ライブラリ・モジュールの使用 ⑧ 期末試験 		
予復習等	【予習】 ガイドンスや毎回授業中に指示する 【復習】 授業内容を振り返り、理解が不十分な事項については必ず理解しておくこと		
評価方法	平常点	30%	
	課題および授業内試験	70%	
履修条件	なし		
教科書	適宜、プリントの配布あるいはスライドによる提示を行う		
参考書	なし		

科目名	クリティカル・シンキング Critical Thinking	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代において、気候変動の問題やCOVID-19の問題など、特定の国・地域だけでは対応することが難しい複合的な課題に直面している。人工知能（AI）においても、国際的な競争のみならず、そのリスクに関して、国際的なルール作りも議論されている。こうした状況において、これまで以上に異なる分野や国際間の相互理解が求められている。そこで、本講義では、広い視野から学問に対する興味・関心を喚起するとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	この授業は、講義、ディベートやディスカッション、発表などを通じて実践的な学びを提供します。グローバル社会において必要とされるスキルや知識、特にグローバル人材としての役割や能力を理解し、問題解決するために必要な要素について学ぶ。 【SDGs : 4, 9】		
授業計画	① クリティカル・シンキングの前提知識 ② メディアリテラシーについてのワークショップ ③ 国際的な課題、これからの時代を考える ④ 問題解決・議論の手法(1)ロジカル・シンキングとディベートの手法 ⑤ 問題解決・議論の手法(2)バイアスについて学ぶ ⑥ 問題解決・議論の手法(3)実践 ⑦ グローバル人材に必要とされる知識や能力 ⑧ まとめ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 グローバル人材に関連するニュースなどについて、興味をもって主体的に情報収集しておくこと 【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	初回の授業で担当教員が提示する。		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	なし。		

科目名	クリティカル・シンキング Critical Thinking	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代において、気候変動の問題やCOVID-19の問題など、特定の国・地域だけでは対応することが難しい複合的な課題に直面している。人工知能（AI）においても、国際的な競争のみならず、そのリスクに関して、国際的なルール作りも議論されている。こうした状況において、これまで以上に異なる分野や国際間の相互理解が求められている。そこで、本講義では、広い視野から学問に対する興味・関心を喚起するとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	この授業は、講義、ディベートやディスカッション、発表などを通じて実践的な学びを提供します。グローバル社会において必要とされるスキルや知識、特にグローバル人材としての役割や能力を理解し、問題解決するために必要な要素について学ぶ。 【SDGs : 4, 9】		
授業計画	① クリティカル・シンキングの前提知識 ② メディアリテラシーについてのワークショップ ③ 国際的な課題、これからの時代を考える ④ 問題解決・議論の手法(1)ロジカル・シンキングとディベートの手法 ⑤ 問題解決・議論の手法(2)バイアスについて学ぶ ⑥ 問題解決・議論の手法(3)ディベート実践 ⑦ グローバル人材に必要とされる知識や能力 ⑧ まとめ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 グローバル人材に関連するニュースなどについて、興味をもって主体的に情報収集しておくこと 【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	初回の授業で担当教員が提示する。		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	なし。		

科目名	地域データ分析 Introduction to Regional Data Analysis	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「地域課題」と聞くと、ある地域が抱える何かしらの課題だろうというイメージを持つと思う。課題としたものは、果たして本当に課題なのか。漠然と見る課題もあれば、エビデンスに基づき提示できる課題もあるだろう。本授業では、データ入手から、データ分析、データの裏を語る地域課題について取り扱う。様々な地域において公的なデータを基にした地域理解、地域分析に及ぶ考え方を学ぶ。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：実務経験なし】</p> <p>本授業では、地域課題を裏付ける公表データ、地域発見に繋がる公表データの搜索、入手したデータの分析と発表、他者の発表を聞いての学び、質疑などの活動を通じ、課題発見、課題解決に結びつく提案力を身につける。</p> <p>【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション 「地域課題」を知る ② 地域資料の入手、資料は1つか複数か？ ③ 入手資料から一何を見るか？何をみたいか？ ④ 地域資料からの分析と発表準備 ⑤ 分析開示（発表） 発表を基とした議論 ⑥ 分析の振り返りーデータ再分析 見たものは「適当」であったか？ ⑦ 再分析と最終発表準備 ⑧ 最終報告 		
予復習等	<p>【予習】地域課題へ関心を向けると共に、疑問点を調べる。概ね1時間程度</p> <p>【復習】日常生活で目にする様々と地域課題とを結びつけ考察する。概ね2時間程度</p>		
評価方法	授業内課題50%、最終課題50%		
履修条件	なし		
教科書	なし 必要に応じて授業内で資料を配布する		
参考書			

科目名	人間知能と人工知能 Human Intelligence and Artificial Intelligence	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年後期）	科目区分	講義
担当者	未定	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標			
授業概要			
授業計画			
予復習等			
評価方法			
履修条件			
教科書			
参考書			